作品展を見て感動したのが出会い

滋子さんが、平野流和紙ちぎり絵と出合ったのは約38年前。群馬県高崎市内のデパートで、平野流和紙ちぎり絵の作品展を見て「和紙で立体的に表現してある作品を初めて見た」とその迫力に圧倒され、感動したのがきっかけ。

東京の大手町でちぎり絵教室が開かれていると聞き「やりたいことが見つかった」とすぐに通い始められました。

その教室には、家元が毎月1回、指導されていました。滋子さんは、8年間通い続け、その後、縁あって日野町の家元、平野家に嫁ぎました。

ちぎり絵の画題はたくさん。草花、玩具、美人画、魚などさまざまな

つきない画題 楽しく作りたい

今では、平野流和紙ちぎり絵の看板を滋子さんが受け継ぎ、制作、普及活動に励んでいます。

滋子さんは家元から「ちぎり絵は、楽しく作るものと教えられました」と今でもその教えを忘れることはなく、楽しく教室を開いています。

「同じ画題でも、二度と同じ作品はできない。そこがまたおもしろく、難しい」とちぎりの奥の深さを話されます。

各種類の和紙を組み合わせ立体的に表現

また、今まで数え切れないほどの作品を作り上げても「画題がつきることはありません。これからも作り続けます」「創作品など新しい分野の作品を作ってみたい。日々挑

野冨美江さん作

作品名「アネモネ」　平野滋子さん作